2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	コミュニケーション英語	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	海外
担 当 教 員	各研修先講師 専任教員	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
海外研修視察により、海外の医療事情および看護のあり方の実際について学ぶ。 1.他国の医療事情について文化との関連から考えることができる。 2.他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる。 3.研修先で日本の看護についてプレゼンテーションを行い、情報交換できる。 4.学生間交流を通し、看護に対する考えを共有できる。					
《成績評価の方法と基準》					
態度・課題・レポート内容で総合的に評価する。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
配布資料 各自参考文献やネット検索で収集する。					
《授業外における学習方法》					
まずは相手国の状況について十分に学習し、日本の現状と比較し理解を深め、説明できるようにしておくこと。また海外研修では積極的にコミュニケーションをとり、自分を表現し、その地域の文化も含め看護の理解につとめるようにすること。					
《履修に当たっての留意点》					
海外研修先の文化を尊重した態度で学習する。また、積極的に英語でコミュニケーションをとり多文化の中で多くの学びを得てほしい。最も大事なことは、体調管理であり、出発前からの健康管理を万全にすること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて説明できる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの文化・健康を取り巻く課題を調べる	
	各コマに おける 授業予定	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて			
第2回	授業を 通じての 到達目標	参加した授業①の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての 事前学習	
	各コマに おける 授業予定	研修校における授業参加			
第3回	授業を 通じての 到達目標	参加した授業②の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての 事前学習	
	各コマに おける 授業予定	研修校における授業参加			
第4回	授業を 通じての 到達目標	施設見学で関心を持った点について、質問する事ができる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの施設に関する 事前学習	
	各コマに おける 授業予定	研修校における施設見学(病院、ナースিংホームなど)			
第5回	授業を 通じての 到達目標	学生発表会に参加し、発表内容に対して、意見が言える。	配布資料 各自の学習ノート	研究の発表原稿・PPの 確認・修正	
	各コマに おける 授業予定	学生間交流、相互研究発表			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	積極的にコミュニケーションをとり、交流する事が出来る。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
	各コマにおける授業予定	学生間交流、文化交流会		
第7回	授業を通じての到達目標	文化・習慣等を体感し、日本文化との相違をまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
	各コマにおける授業予定	全研修期間における活動		
第8回	授業を通じての到達目標	学びを他者にわかりやすいように発表し、他者の発表には意見を発言できる。	配布資料 各自の学習ノート	まとめ
	各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表(学びの共有)		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	疾病論Ⅳ(感覚器・生殖器)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室
担 当 教 員	半田充・市川博康・曾谷拓之・松本昌大・多田謙治	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>生体の防御・免疫機能や感覚器・生殖器・耳鼻咽喉に障害を生じた場合の疾患の成因と病態生理、検査・治療について学ぶ</p>						
<p>演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門分野11 アレルギー膠原病 菌 感染症 専門分野12 皮膚 専門分野13 眼 専門分野14 耳鼻咽喉 15 歯・口腔 医学書院 疾病の成り立ちと促進1 病理学 疾病の成り立ちと促進2 薬理学 医学書院</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病体治療学の前に復習しておくこと</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	I 外部環境からの防御機能・皮膚障害について説明することができる			系統看護学講座 専門 基礎分野12皮膚 医学 書院	教科書で予習する
	各コマに おける 授業予定	①局所・全身症状、他臓器由来の皮膚疾患 1)主要疾患 アトピー性皮膚炎・麻疹・褥瘡・熱傷 2)主要症状 痒み 痛み 落屑 鱗屑 分泌物 体温調節異常 3)検査・治療 アレルギー検査 パッチテスト 光線過敏症検査 顕微鏡検査 病理組織検査 内服療法 外用療法(軟膏処置)手術療法 光線療法 レーザー療法 放射線療法 凍結療法 4)合併症と予後				
第2回	授業を 通じての 到達目標	II 免疫機能の障害について説明できる			系統看護学講座 専門 分野11 アレルギー膠 原病 菌 感染症 医 学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する
	各コマに おける 授業予定	1自己免疫 2アレルギー性疾患 3免疫不全 1)主要な疾患(膠原病)全身性エリテマトーデス(SLE)・関節リウマチ・シェーグレン症候群・花粉症(アレルギー性鼻炎)・蕁麻疹・接触性皮膚炎・メチリチン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) ヒト免疫不全性ウイルス(HIV)感染症2)主要症状 関節痛 関節炎 筋痛 筋炎 筋力低下 腎炎 血管炎レイノー現象 呼吸器症状 消化器症状 皮膚症状 眼症状 循環器症状 3)検査・治療 一般検査・血清検査・免疫学的検査・穿刺検査・病理学的検査・薬物療法・ステロイド・免疫抑制薬・抗リウマチ薬・抗ウイルス薬				
第3回	授業を 通じての 到達目標	III 神経機能障害(感覚器)について説明できる			系統看護学講座 専門 基礎分野13眼14 耳鼻 咽喉 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する
	各コマに おける 授業予定	1. 感覚機能の障害 視覚・聴覚・平衡・臭覚・味覚・知覚障害 1)主要症状 白内障 緑内障 網膜はく離 網膜症 メニエール病 中耳炎 副鼻腔炎 難聴 歯周病 2)主要症状 充血 眼脂 視力障害 屈折異常 耳痛 耳鳴 眩暈 鼻出血 難聴				
第4回	授業を 通じての 到達目標	III 神経機能障害(感覚器)について説明できる			系統看護学講座 専門 基礎分野13眼14 耳鼻 咽喉 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する
	各コマに おける 授業予定	3)検査・治療 眼底検査 薬物療法(点眼) 手術療法 平衡機能検査 聴力検査 4)合併症と予後				
第5回	授業を 通じての 到達目標	IV 歯・口腔の構造と機能について説明できる			系統看護学講座 専門基 礎分野11アレルギー膠 原病 菌 専門分野15 歯 口腔 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する
	各コマに おける 授業予定	1歯・口腔の構造と機能 2症状とその病態 疼痛 腫脹 口腔出血 歯の欠損 口臭 顎口腔機能障害など				

授業の方法	内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 IV歯・口腔の構造と機能について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野11アレルギー-膠原病 歯 専門分野15 歯 口腔 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 3 検査と治療・処置 4 疾患の理解		
第7回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 耳鼻咽喉の病態と治療について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 専門分野7成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 1耳鼻咽喉 1)症状と病態生理 2) 診断と検査		
第8回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 耳鼻咽喉の病態と治療について説明できる	専門分野14 耳鼻咽喉 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 3)主の疾患とその治療法 鼻の疾患、中耳炎 咽頭の疾患		
第9回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 生殖機能の障害 1女性生殖器 発生から老化の機能的疾患 乳腺の疾患 1)主要疾患 女性生殖器・乳腺・卵巣嚢腫・腫瘍		
第10回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 2)主要症状 月経異常・性器不正出血・帯下・腰痛・下腹部痛・更年期症状		
第11回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 3)検査 病理学的検査 細胞診 卵管造影 超音波検査 基礎体温 ホルモン検査		
第12回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 ホルモン療法 薬物療法		
第13回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 手術療法		
第14回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 4)合併症と予後		
第15回	講義形式	授業を 通じての 到達目標 男性生殖器の疾患	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける 授業予定 男性生殖器 男性不妊症 勃起障害 陰嚢水腫		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	治療論 I (薬理学)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	赤木正明	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
薬理の目的、薬物の定義、薬物療法の原則や薬物の歴史を学び、更に薬物が体内に入ってからメカニズムや主作用・副作用を学ぶ					
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院					
《授業外における学習方法》					
予習・復習を行い授業に参加すること。					
《履修に当たっての留意点》					
薬剤に興味関心を持ち、積極的に取り組みましょう。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	I 薬物の人体へのはたらきと薬物の生態側の対応を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	I 薬物を用いて治療する薬物治療の医療のなかでの意味 1)薬による病気の治療 2)薬としての基本的性質 3)薬の使用目的			
第2回	授業を通じての到達目標	I 薬物の人体へのはたらきと薬物の生態側の対応を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	4)薬物療法における看護師の役割 誤薬の防止・治療効果の確認 副作用に関する有害作用の発見と防止・服薬に関する患者指導 患者家族への説明 医療による薬害(HIV・ウイルス性肝炎・クロイツフェルトヤコブ病)5)薬事法 薬の管理取り扱い、毒薬・劇薬の取り扱い			
第3回	授業を通じての到達目標	2 身体の中で薬のはたらき、作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	1)薬理作用の基本形式 促進と抑制作用 直接と間接作用 局所と全身作用 主作用と副作用(有害事象)2)薬の治療域と作用点 薬物相互作用 アナフィラキシーショック			
第4回	授業を通じての到達目標	II 薬の投与経路を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	1. 薬の投与経路(経口・注射・吸入・外用) 1)吸収2)分布3)薬物の代謝 4)排泄 5)生物学的半減期 6)薬物の血中濃度と薬物血中濃度モニタリング			
第5回	授業を通じての到達目標	III 医薬品の安全対策について説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	1 看護業務に必要な薬の知識 1)薬に関する単位 2)混合の可否 3)禁忌4)保存方法5)薬理効果に影響する要因6)医療過誤(誤薬)			

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	1. 抗菌薬 2. 抗ウイルス薬・抗真菌薬		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	3. 抗がん薬		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	4. 心臓に作用する薬 5. 狭心症治療薬 6. 降圧薬・昇圧薬		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	7. 利尿薬の種類		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	8. 血液に関する薬 9. 免疫抑制薬		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	10. 副腎皮質ステロイド 11. 糖尿病治療薬		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	12. ホルモン補充療法・抗ホルモン療法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅳ 主な薬物の作用と副作用を説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	13. 中枢神経作用薬 14. 麻薬と麻薬性鎮痛 15. 非ステロイド性抗炎症薬 16. 救急時に使用するおもな医薬品		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 薬品の表示・毒薬・劇薬の薬を検索し、表示し説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	①座薬・舌下薬・貼付薬の方法を実施する ②薬剤の単位を理解し処方箋・正しい用法方法を読み取る ③キシロカインその他の添付書を読みとる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	2. 薬の投与経路について体内をどのように巡っていくか薬の投与経路・血中濃度の推移調べ説明することができる	系統看護学講座 専門基礎 薬理学	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	④薬剤希釈の計算と消毒液をつくる 重量・容量(液量)の単位計算 液状・粉状注射液指示量の換算 小児薬液量の希釈		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	治療論Ⅲ(栄養学)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	吉田 有加里	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人間にとっての栄養の意義、栄養と健康のかかわりについて学ぶ。人間の生理機能との関連から、栄養の基本的概念と各種栄養素、栄養状態の評価、臨床栄養として食事療法を理解する。専門職として保健・医療・福祉の場で、食に関する問題を把握・解決するための知識を習得する。主な食品の栄養学的意義を学び、各栄養素の消化・吸収について学習する。健康の維持・増進および回復を図るため食事について学習する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野3 栄養学 医学書院</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>日ごろから食品に含まれる栄養に関心を持ち、サプリメントや健康補助食品などの成分表などを見るようにする</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>欠席せず、積極的に授業に取り組むこと</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 五大栄養素について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	栄養素の種類(五大栄養素)と働き ビタミンミネラル欠乏症 エネルギー代謝			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 栄養素の消化・吸収・代謝について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	栄養素の消化・吸収・代謝について 栄養素についての復習			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 栄養ケア・マネジメントについて理解し、看護の役割について述べることができる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	栄養ケアマネジメント (スクーリング、アセスメント、PDCAサイクル)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 栄養状態のアセスメント、それに基づいた計画の立て方について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	栄養ケア計画、プランニングについて 基礎代謝と必要基礎量			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 肥満患者の食事療法について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	栄養代謝疾患の食事療法(肥満・糖尿病) 栄養補助食品の試飲			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 糖尿病、脂質異常患者の食事療法について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	食事療法(糖尿病、脂質異常、高尿酸血症) 汁物の塩分濃度測定と試飲		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 各系統別疾患の食事療法について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 疾患別食事療法の実際 1)循環器疾患 減塩食(調味料) 2)消化器疾患 3)栄養・代謝疾患 糖尿病の食品交換表と特殊食品 4)腎臓疾患 腎臓病 特殊食料		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 各系統別疾患の食事療法について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 疾患別食事療法の実際 5)血液疾患 6)食物アレルギー 7)小児疾患 8)妊娠高血圧 9)術前・術後		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康づくりに必要な食事・食生活について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	健康づくりと食品・食事・食生活 1. 食事と食生活 2.食品と食品群 3.各種食品群の分類方法 食品交換表の理解		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 病院食の種類とその特徴について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 病院食とは: 病院食の意義と種類、一般食・特別食・検査食 2.栄養補給法(経腸栄養法、静脈栄養法、経腸栄養と静脈栄養による管理の現状と今後)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ライフステージ(乳幼児～青年期)と栄養について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養 乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期における栄養		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ライフステージ(成人期～高齢期)と栄養について説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養 成人期・妊娠期・授乳期・更年期・高齢期における栄養 (高齢期: 嚥下調整食・ソフト食・とろみ食)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 職業による食事内容の違いについて説明できる	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	一般職のカロリーの違い ライフステージ別の食事量の違いを見本から理解する 20代女性・男性の必要な栄養量を理解し自己の食生活と比較する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 疾患別食事療法の実際について説明できる。	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	疾患別食事療法の実際 各疾患別の食事と一般食との違いや特徴を理解する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康日本21にみる栄養問題の変遷と現在の課題について述べる事ができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	食生活の変遷と栄養問題 生活習慣病の予防 食生活指針と健康日本21		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	井上 光子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
地域保健活動を展開する上で、基盤となる公衆衛生の理念、考え方、活動方法について学ぶ。公衆衛生の基本理念、活動方法を理解する。地域の健康問題とその関連要因について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向						
《授業外における学習方法》						
社会・地域の課題に関心を持って、情報収集すること。						
《履修に当たっての留意点》						
興味・関心を持って積極的に授業に取り組むこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生の概念と、それを学ぶ意義について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生とは何か 公衆衛生の歴史背景			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生の展開、その対象について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	日本における公衆衛生 戦後の展開(プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション) 公衆衛生の対象			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生のしくみについて述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の対象 公衆衛生のしくみ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公衆衛生における倫理的課題について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生と生命倫理 情報公開 診療情報の提供			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公衆衛生における倫理的課題について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	情報公開と生命倫理 診療情報の提供 個人情報の保護と患者のプライバシーの権利			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康指標の見方について理解し、データについて説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の技術 疫学と健康指標 新しい健康概念の提案と健康づくりを支援する方法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 地域コミュニティへのアプローチの方法について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の技術 地域コミュニティを対象としたヘルスプロモーション活動		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 地域コミュニティへのアプローチの方法について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の技術 健康づくり計画と実践評価のプロセス		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 社会福祉との関連について説明することができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	日本における社会保障制度および医療制度の改革 日本の社会保障制度および医療制度をめぐる動向		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 日本の医療制度について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	日本における社会保障制度および医療制度の改革 社会保障制度および医療制度の改革		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. グローバル化と国際保健について説明できる。	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グローバル化する世界と公衆衛生 公衆衛生とグローバル化		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 国際保健と国際協力について述べる事ができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グローバル化する世界と公衆衛生 国際協力(JICA・海外青年協力隊など) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 地域における保健活動について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	地域保健 地域づくりと地域 地域保健とは		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 地域における保健活動について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	地域保健 地域保健の展開		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公衆衛生活動の実践現場とその活動概略について述べる事ができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	場面別公衆衛生の実践 ①学校保健②産業保健③災害保険④健康危機管理		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	総合医療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室
担当教員	塩路 康信	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
保健医療の現象について、経済現象・医療現象そして、看護の視点から理解することにある。看護の対象となる個人、家族の生活をしている地域社会の現状が人々の生活と健康にどのような影響を及ぼしているか理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
シラバスを参考にし、事前に教科書を読んでおくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1. ヒューマン・ケアの原点について、自分の考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	I. 医療と看護の原点 II. 現代医学の起源—古代から近代へ				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 生活の中の医療について考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	III. 私たちの生活と医療 1. もしも私たちが病気や怪我をしたら 2. 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3. 疾病の一時予防と健康増進 4. 少子高齢社会と世代間のきずな 5. 心の健康と精神医療				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 先進医療技術がもたらす恩恵と課題について述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	IV. 現代医療の新たな課題 1. 先進医療技術の成果と私たちの新たな課題 2. 産業社会の発展と人間の健康				
第4回	授業を通じての到達目標	1. 社会の人々の医療への意識の変化について述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	V. 成熟する社会と人々の意識変革 1. 医療不信から「賢い患者」へ 2. インフォームドコンセントと医療情報の開示				
第5回	授業を通じての到達目標	1. 医療の対する新しい視点と求められることについて、自分の考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	VI. 医療を見つめなおす新しい視点 1. 「医」における「論理」と「倫理」そして「管理」 2. 医療と倫理 3. 医療の管理と評価				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. これまでの学習を踏まえ、自身の健康観に費え述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
	各コマにおける授業予定	VII. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 1. 医療変革の波とともに始まる21世紀 2. 新時代の保健・医療の担い手について 3. プライマリーケアの新たな展開 4. 医療におけるケアの視点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 地域共生社会における医療・看護の役割について考えることができる	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく ミニレポート
	各コマにおける授業予定	VII. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 5. これからの先端医療技術開発 6. 情報社会と医療 7. 保健・医療の国際化 8. 地域包括医療システムと地域住民 9. 保健・医療システムと地域住民の役割 10. 地球時代のケアと除法技術のネットワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定	終講試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	社会保障制度	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
<p>私たちは、生まれてから死ぬまでの生活において、様々な困難に直面する。社会の様々な立場から人間の健康に関わることが期待される看護師にとって社会保障や社会福祉の各制度の知識・素養を身につける。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
<p>授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する</p>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会福祉 医学書院</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>予習・復習を行い授業に参加すること</p>					
《履修に当たっての留意点》					
<p>積極的に取り組み、興味・関心をもつこと</p>					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1.社会保障制度の概念と目的について説明できる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	I. 社会保障制度と社会福祉 1. 社会保障の概念・目的 2.社会福祉の法制度			
第2回	授業を 通じての 到達目標	1.現在の社会状況を踏まえ、社会保障の動向と問題について述 べることができる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	II. 現在社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1. 現代社会・地域社会の変化 ②. 社会保障・社会福祉の動 向			
第3回	授業を 通じての 到達目標	1. 医療保障について説明できる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	III. 医療保障 1. 医療保障制度の沿革 2.医療保障制度の構造と体系 3.健 康保険と国民健康保険			
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. 高齢者医療、保険診療の仕組みについて説明できる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	III. 医療保障 4.高齢者医療制度 5.保険診療の仕組み 6. 公費負担診療 7.国民医療費			
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. 介護保障について説明できる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	IV. 介護保障 1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2.介護保険制度の概要 3.介護保険制度の課題と展望			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく
	各コマに おける 授業予定	1諸手当の種類とその目的について説明できる V. 所得保障 3. 社会手当 ①子ども手当②児童扶養手当、特別児童扶養 手当 ③障害者手当 4. 学働保険制度 ①雇用保険制度 ②学働者に対する補償保険制		
第7回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を読 んでおく
	各コマに おける 授業予定	1. 公的扶助の目的と仕組みについて説明できる 2. 近年の社会保障の動向と課題について述べるができる VI. 公的扶助 1. 貧困・低所得問題と公的扶助 2. 生活保障制度の仕組み 3. 低所得者対策 4. 近年の動向		
第8回	講義形式	授業を 通じての 到達目標		
	各コマに おける 授業予定	終講試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	社会福祉	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	階段教室
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
<p>社会の中で人々の生活は多様化し、課題解決のためには領域を問わず、保健や医療・福祉の連携が不可欠である。社会福祉の理念を理解し、利用者を支援するサポートシステムの構築を理解する。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
<p>授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する</p>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院</p> <p>他随時指定します。</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>配布した資料の練習問題に取り組むこと</p>					
《履修に当たっての留意点》					
<p>今後も続く少子高齢の加速がもたらす問題、経済成長率の低下がもたらす問題、雇用や所得の変化や格差がもたらす問題、国の基盤を揺るがす問題など、現代社会がかかえる問題について、専門職をめざす者として普段から興味をもつこと</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1. 社会福祉を学ぶ意義を述べることができる 2. 高齢者福祉について、説明できる。	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	I. 社会福祉の分野とサービス 1. 高齢者福祉 1) 高齢社会の到来と高齢者の状況 2) 高齢 者福祉の施策 3) 老年保健事業			
第2回	授業を 通じての 到達目標	1. 障害者福祉の対象とその概略について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	2. 障害者福祉 1) 障害者の定義と実態 2) 障害者福祉の理念 3) 障害者福祉制度の変遷 4) 障害者福祉の関連施策			
第3回	授業を 通じての 到達目標	1. 児童福祉の対象とその概略について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	3. 児童家庭福祉に関する法律(児童福祉法、母子保健法、少 子化対策、児童虐待法、DV対策、母子家庭等施策、非行児童 の福祉)			
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. 社会福祉と医療の関連に	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術(ケースワーク)			
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. グループ支援のあり方について知り、看護への適用への要点 について述べることができる	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 3. 集団援助技術(グループワーク) 4. 間接援助技術と関連援助技術			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式 授業を通じての到達目標	1. 社会福祉援助の際の連携のあり方を知り、看護職としての要点について述べる事ができる。	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読んでおく
	各コマにおける授業予定	Ⅱ. 社会福祉実践と医療・看護 5.社会福祉援助の検討課題(エンパワメント、アドボカシー) 6.連携の重要性 1))医療システムの変化と新たな連携の課題		
第7回	講義形式 授業を通じての到達目標	1. 社会福祉援助の際の連携のあり方を知り、看護職としての要点について述べる事ができる。	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読んでおく
	各コマにおける授業予定	Ⅱ. 社会福祉実践と医療・看護 7.社会福祉実践と医療・看護との連携(医療ソーシャルワーカーとは) 8.連携の場面とその方法(職種間連携、医療機関における連携、地域ケアシステムにおける他期間との連携)		
第8回	講義形式 授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定	終講試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15	(1)	時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	階段教室		
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格						
《授業科目における学習内容》								
わが国の保健医療に関する諸制度の概要を理解し看護に必要な法律の基礎知識・保健・医療・法規を理解し、医療従事者としての業務と責任を学ぶ。法律に基づく生活者の生活問題に対する基本的な法律の制度について学ぶ。								
《成績評価の方法と基準》								
レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院 参考図書は必要時随時紹介								
《授業外における学習方法》								
授業では該当単元の教科書を読んで臨むこと。								
《履修に当たっての留意点》								
身の回りの制度や施策に関心を持ち、根拠となる法律は何か考える習慣をつける。								
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容			
第1回	授業を 通じての 到達目標	1. 関係法規を学ぶ意義について述べるができる 2. 厚生行政と看護の関連について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読 んでおく			
	各コマに おける 授業予定	衛生法 厚生行政のしくみ 学校保健安全法						
第2回	授業を 通じての 到達目標	1. 看護職の質の維持・向上のための法律について説明できる 2. 感染症に関する法律の体系について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読 んでおく			
	各コマに おける 授業予定	保健師助産師看護師法 感染症に関する法について						
第3回	授業を 通じての 到達目標	1. 介護保険法について説明できる 2. 公的医療保険制度について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読 んでおく			
	各コマに おける 授業予定	介護保険法 公的医療保険制度について						
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. 保健師助産師看護師法について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読 んでおく			
	各コマに おける 授業予定	保健師助産師看護師法について						
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. 介護保険法、母子保健法の問いに対し正しい選択ができる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読 んでおく			
	各コマに おける 授業予定	看護師国家試験過去問 介護保険法、母子保健法						

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 精神保健福祉法、医療法の問いに対し正しい選択ができる	系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	看護師国家試験過去問 精神保健福祉法、医療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 労働安全法、保健師助産師看護師法 発達支援法などの問いに対し正しい選択ができる	系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	看護師国家試験過去問 労働安全衛生法、保健師助産師看護師法、発達障害支援法 自殺対策基本法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専 門 分 野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室/実習室
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
成人期にある事例を活用して、看護過程展開による問題解決思考で実践可能な看護計画立案について学ぶ。 さらに、看護実習室での周手術期の術後ベッド作成・弾性ストッキングの着脱方法などの演習を行う。 事例やシュミレーションを通して、成人看護に必要な援助技術を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
記録用紙並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 系統看護学講座 別館 臨床外科総論・各論 医学書院						
《授業外における学習方法》						
演習、グループ学習がスムーズにいくように関連する事前学習を十分に行う。また、事例に関して必要な資料を探しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
成人期にある患者のニーズ、健康上の問題を理解し、問題解決に向けて看護が実践できるよう基礎的な知識と技術、態度を主体的に学ぶ。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人看護の看護過程展開の考え方、記述についてわかる。	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料	学習した看護過程の展開について振り返っておく	
		各コマにおける授業予定	1. 成人看護学援助論Ⅴオリエンテーション 2. 看護過程の振り返りおよび本校の実習記録での思考過程について (記録の説明)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性期:糖尿病患者のアセスメントに必要な情報を整理し記述できる。	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料	事例を読み、必要な資料を準備する	
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程個人ワークの進め方 事例紹介(糖尿病) 2. 情報の分類、整理～アセスメント			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる。	事例展開のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく	
		各コマにおける授業予定	1. 糖尿病患者のアセスメント			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく	
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔・周手術期:消化器疾患患者のアセスメントに必要な情報を整理し記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく	
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程グループワークの進め方 事例紹介 2. 情報の分類、整理～アセスメント			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 消化器疾患患者のアセスメント		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題を解決すべき具体的な看護計画の立案ができる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 看護計画の立案		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題とそれを解決するための計画について、他者の考えを聴くことで追加・修正ができる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の事例の看護過程 まとめ		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術当日の看護を体験する。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	術後ベッドの作成、物品の準備、弾性ストッキング着用、心電図モニター装着		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	術直後の観察、各種ドレーンの管理ができる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 術直後の観察 2. ドレーン管理		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	術後1日目の第1歩行(早期離床)に向けた援助について説明できる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程展開事例の術後1日目の援助(手順作成)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	術後の第1歩行の援助を安全・安楽に実施できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. シミュレーション演習 援助計画に沿って、第1歩行の援助を実施		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 実施した援助の評価を記述できる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 実施した援助をリフレクション		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専 門 分 野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池本 智義	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
健康危機状況の概念を捉え、急性期にある成人の特徴、周手術期、救命救急における成人がセルフケア困難に陥っている時の看護、クリティカルケア看護について学習する。周手術期の経過や術後の生体反応をふまえた回復への看護、消化器疾患・循環器疾患をもつ人の看護について理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院			
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 医学書院			
系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院						
ナーシンググラフィカ23 健康危機状況 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
健康危機状況の視点をもつために自分自身の周囲の人々の健康や出来事・記事に関心を持つ。1年次の学習内容を復習し、急性期の看護、救急看護に理解を深めていく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある成人を理解し、述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 資料	成人看護学概論の急性期に関する学習の復習	
		各コマにおける授業予定	1. 健康危機状況とは 2. 「成人」にとっての健康危機とは 3. 成人期の急性期の特徴と看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術侵襲と生体反応について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 外科的治療、手術侵襲とは、侵襲に対する生体反応 2. 炎症、感染症 3. 創傷治療			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	周手術期看護の特徴について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 麻酔法と看護 2. 手術を受ける患者の状況、インフォームドコンセント 3. 周手術期の安全管理			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術前患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 心の整理と意思決定支援 2. 手術に向けた患者教育・指導、クリニカルパス 3. 外来と病棟の連携			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術前患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	手術前の具体的援助ー手術前オリエンテーション、心理面の援助、全身状態を整える援助など 手術前日・手術当日の看護援助			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 手術室の環境と看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 手術室における看護の展開		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 手術直後・術後患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 回復を促進するための看護 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 手術後患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 自己管理に向けた看護 在宅療養に向けての看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 集中治療を受ける患者の看護と救急看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 クリティカルケアとは 集中治療室とは 集中治療における看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 胃・十二指腸疾患患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 1. 胃・十二指腸潰瘍患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 上部消化管内視鏡・造影検査 主な検査に対する看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 胃・十二指腸疾患患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 病態生理からアセスメントの視点 食事療法などの看護 胃切除術を受ける患者の看護		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 大腸がん患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 1. 大腸がん患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 下部消化管内視鏡 主な検査に対する看護		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標 大腸がん患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 病態生理からアセスメントの視点 大腸がん、ストーマ造設術を受ける患者の看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 虚血性心疾患患者の看護について述べるができる。	循環器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 1. 急性心筋梗塞患者の特徴 2. 胸痛・不整脈・動悸 主な症状に対する看護 3. 心電図、心臓カテーテル検査 主な検査に対する看護		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 虚血性心疾患患者の看護について述べるができる。	循環器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 急性心筋梗塞患者の看護 ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	横田理香 竹内美和	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>がんや難病をもつ人の看護、人生最後を支える看護、健康障害の受容過程における援助や個々の死生観について理解し、思いを受け止め 寄り添うことの大切さを学ぶ。苦痛を全人的苦痛として捉え、緩和する知識・技術・態度について学びを深め、さらに自己の死生観を深める 機会とする。。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 ターミナルケア がん看護</p> <p style="text-align: right;">参考図書は授業中に随時紹介する</p>						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
1年次の学習内容を復習し、終末期の看護、ホスピス、ターミナルケア、緩和ケア、がん看護に関心を持ち、理解を深めていく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	終末期看護、エンド・オブ・ライフケアの概念について述べるができる。		テキスト 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 資料	成人看護学概論の終末期に関する学習の復習	
	各コマにおける授業予定	終末期医療の現状、終末期看護の概念と特徴 終末期における倫理的課題、インフォームドコンセント・死の受容など エンド・オブ・ライフケアにおける看護 1)苦痛緩和と意思決定支援 2)ACP 3)家族ケア				
第2回	授業を通じての到達目標	終末期にある患者と家族の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	ターミナルケア、症状コントロール、リラクゼーション、看取り、家族の危機、残された家族の家族機能の再構築への支援ー グリーフケア、家族機能・家族システムの変化、ソーシャルサポート				
第3回	授業を通じての到達目標	がんをもつ人の生活や看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	がんに関する動向 がん患者の苦痛と生活上の困難と看護 がん患者の家族への支援				
第4回	授業を通じての到達目標	侵襲的治療ー化学療法を受ける患者の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	化学療法を受ける患者の看護				
第5回	授業を通じての到達目標	侵襲的治療ー放射線療法を受ける患者の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	放射線療法を受ける患者の看護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ターミナル・緩和ケアの概念と日本における動向について述べることができる	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	緩和ケアの歴史と現状 緩和ケアを要する人とその家族の理解		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアを要する人とその家族への看護を述べるができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	身体的ケア 精神的ケア 社会的ケア スピリチュアルケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血器疾患患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 血液・造血器疾患患者の特徴 2. 貧血・出血傾向 主な症状に対する看護 3. 血液検査 主な検査に対する看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血器疾患をもつ人の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	悪性リンパ腫患者の看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	事例の情報整理、アセスメント		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	アセスメント、全体像・関連図		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	全体像、看護問題の整理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	看護計画立案		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	事例の看護過程 討議 まとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの授業を振り返り自身の死生観や終末期看護に関する考えを述べるができる。	授業資料の復習	死生観に関するレポートをまとめる
		各コマにおける授業予定	終末期看護の在り方 死生観		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅳ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池本 智義 竹内 美和	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
外傷や疾病によりセルフケア能力が低下した状態に陥り、障害をもつ成人がセルフケアを再獲得し、障害を受け入れその人らしく生きていくための看護について考える。回復期にある患者と家族の特徴、回復期にある人のセルフケア、リハビリテーションを支える看護を学ぶ。神経疾患(脳血管障害の回復期)、脊髄損傷、アレルギー・膠原病・感染症患者の看護について学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 アレルギー・膠原病 感染症 医学書院					
《授業外における学習方法》					
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。					
《履修に当たっての留意点》					
障害について考えを深めることができるよう、障害がある人に関連する記事、映画、小説などに関心を持つ。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの定義とそれを必要とする人について述べることができる。	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	成人看護学概論の回復期に関する復習	
	各コマにおける授業予定	1. リハビリテーションの定義 2. ICDIHとICFの違い 3. 障害をもつとは			
第2回	授業を通じての到達目標	機能障害のアセスメントおよび障害受容と適応への看護を述べる ことができる	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. 機能障害のアセスメント 2. 障害受容と適応への看護			
第3回	授業を通じての到達目標	リハビリテーションに関するチームアプローチ、患者の社会参加への支援について考えることができる。	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. チームアプローチと社会資源の活用 2. 患者の社会参加への支援			
第4回	授業を通じての到達目標	脳血管障害患者を理解しセルフケア再獲得に向けての看護について述べる ことができる。	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. 脳血管障害患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 主な検査に対する看護			
第5回	授業を通じての到達目標	回復期にある脳血管障害患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べる ことができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	脳梗塞・脳出血患者のセルフケアを阻害する要因とその看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	回復期にある脳血管障害患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	障害の受容 リハビリテーション看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷の病態生理、検査、治療		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、障害の受容について考えることができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	障害の受容 事例		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷患者のセルフケアを阻害する要因とその看護 脳神経リハビリテーション		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	アレルギー疾患の病態生理、主な検査・治療と看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	主な症状に対する看護 アレルギー疾患患者の看護		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	膠原病について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	膠原病疾患の病態生理、主な検査・治療と看護		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	膠原病患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	症状に対する看護 膠原病患者の看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	HIV/AIDS患者について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	HIVとは AIDSとは 主な検査、治療(薬物療法導入)の看護		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	HIV/AIDS患者のセルフマネジメントを支援する看護を述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	HIV/AIDS患者の看護		

老年看護学実習 I (施設) シラバス	
shi	2年次
単位数	2単位
授業区分・時間数	実習・60時間(臨地実習1日9時間×6日＋実践活動外学習6時間) 1時間＝45分
担当者	阪上 由美
授業概要	地域で支援を受けながら生活している高齢者と家族を理解し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して看護の役割について考える。高齢者の生活に視点をおき、その対象が大切にしていることや信念に基づいた生き方、充実した生活を送ることができるように看護援助を考える。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活の場について理解できる 2. 地域で支援を受けながら生活している高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴について理解できる 3. 老年期にある対象を尊重し、加齢に伴う変化を考慮したコミュニケーションがとれる 4. 加齢に伴う変化や生活している場での個別性、多様性を考慮した生活援助について理解できる 5. 保健医療福祉チームの協同・連携が理解できる
授業計画 (内容)	<p>実習期間： 介護老人保健施設1日9時間×3日＋多機能型施設1日9時間×2日＋グループホーム1日9時間×1日＋実践活動外学習6時間</p> <p>実習施設：</p> <p><介護老人保健施設> 美作市作東介護老人保健施設 介護保健施設美作リハビリテーションホーム 浩陽園 さとう記念病院老人保健施設</p> <p><多機能型施設> 小規模多機能型居宅介護事業所ケアビレッジ ペルナ ・ 多機能型介護ホームはーと・えーる 西粟倉村小規模多機能型ホーム ひだまり ・ 片岡デイサービス憩いの森 吉野 小規模多機能型居宅介護事業所 やすらぎの家 さよう</p> <p><認知症対応型共同生活施設> グループホーム くう ・ グループホーム 武蔵の里 ・ グループホームみすず ・</p> <p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で支援を受けながら生活している高齢者と家族との関わりと支援について見学。 2. 介護老人保健施設 多機能型施設 認知症対応型共同生活施設での高齢者の生活援助を体験、看護師の役割について理解する。 3. 実習ではカンファレンスに参加し、学びを共有する。
評価方法	出席状況、実習目標の達成状況、実習記録、実習態度について総合的に評価する。
受講者への要望	欠席せず看護学生としての責任ある態度で行動し実習に臨む 前回の実習で自己の課題があれば克服
教材・参考文献	講義・演習で提示したもの

老年看護学実習Ⅱ(病院)シラバス

受講年次	2年次 後期
単位数	2単位
授業区分・時間数	実習・80時間(臨地実習1日9時間×8日+実践活動外学習8時間)
担当者	阪上 由美
授業概要	病院にて治療中の健康障害を有する高齢者を受け持ち、看護過程を展開しながら対象の生活機能上の課題を明確にし、必要な援助を考える。高齢者の退院支援やそれに関連した他職種との連携について理解する
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持った老年期にある対象の発達段階の特徴を理解する 2. 健康障害を持った対象者の身体的・精神的・社会的側面について理解し、日常生活の援助ができる 3. 健康障害を持った対象の回復・維持に向けた残存機能を活かした援助について理解する 4. 健康障害を持って生活する対象・家族の思いを理解する 5. 社会保健福祉チームの協同・連携のあり方について理解する
授業計画 (内容)	<p>実習期間:臨地実習1日9時間×8日+実践活動外学習8時間</p> <p>実習施設:美作市立大原病院、医療法人三水会 田尻病院、医療法人さとう記念病院、 医療法人社団一葉会 佐用共立病院、一般財団法人津山慈風会 津山中央病院 医療法人平野同仁会総合病院 津山第一病院、特定医療法人和風会 中島病院 医療法人伯鳳会 赤穂中央病院</p> <p>実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の問題を持つ老年期の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 健康上の問題を持つ老年期の患者への看護を実践する。 3. 日々のかフェレンスは、実習で関心のある点や疑問について行うので、出来るだけ資料を準備し、看護の学びを共有する。 4. 経験できる基本的看護技術の項目を習得する。
評価方法	出席状況、実習目標の到達状況、実習目標、実習態度について総合的に評価する。
受講者への 要望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席することなく、看護学生としての責任ある態度で行動し、実習に臨む。 2. 前回の実習で自己の課題があれば克服 3. 初めて経験すること(検査や看護技術)は、きちんと調べてから実習に臨む。
教材・ 参考文献	講義・演習で提示したもの

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	半田 充	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>周産期の母子と家族の健康に焦点をあて、心理社会的変化と生活への適応と、健康逸脱時のケアなどについて学習する。また、女性のライフステージにおける健康問題についても学習する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</p>						
《授業外における学習方法》						
予習・復習をして講義内容をまとめる						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	ハイリスク妊娠、妊娠時の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠の異常と看護				
第2回	授業を通じての到達目標	妊娠疾患、多胎妊娠について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠の異常と看護				
第3回	授業を通じての到達目標	産道・娩出力に関する異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	2. 分娩の異常と看護				
第4回	授業を通じての到達目標	胎児・胎児付属物の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	2. 分娩の異常と看護				
第5回	授業を通じての到達目標	産褥及び新生児の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	3. 産褥及び新生児の異常と看護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある妊婦と家族が持つ課題について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	4. 精神障害合併妊婦と家族の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージにおける健康問題について説明できる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	女性のライフステージにおける健康問題と看護		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの学習をふまえ、周産期の母子の健康逸脱内容をまとめることができる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	まとめ 終講テスト		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	精神看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>精神医療と看護の歴史の変遷、精神障害者の処遇、現代の社会病理を概観し、心の健康を理解するために心の構造と機能、成長と発達、その課題と危機、心の健康に及ぼす諸因子、精神看護に関する諸モデルについて学習する。また、心の看護と特性、治療的関わりと働きかけなど心を病んだ人々の理解と援助を探究する精神看護学の基礎的理解と概念について学習する。</p>						
<p>演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ精神看護学、精神看護学Ⅱ精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>テキストのみならず、他の専門誌や日刊紙等から情報を得て、興味本位で書かれた書誌に惑わされず、精神障害者の置かれている社会的状況と一般人間の理解に努めること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業中の私語、携帯電話・スマホの操作、他領域の課題の持ち込みと作業は厳禁とする。また、教科書を事前学習し、精神疾患と症状、状態像とそれらの看護について理解できるよう準備しておくこと。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基本的考え方について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す	
		各コマにおける授業予定	こころのケアと現代社会、精神看護学とその課題、精神障害とはどういうものか、個別性と普遍性、精神看護学に携わるということ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	精神疾患に関する記事について感想文を作成する	
		各コマにおける授業予定	精神の健康とは、精神障害の体験			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す、関係法規を調べる	
		各コマにおける授業予定	精神障害のとらえ方			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間のこころのはたらきについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	心理学の著書を探し自己学習する	
		各コマにおける授業予定	人間のこころの諸活動、心のしくみと人格の発達、心の危機とストレス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係の中の人間 全体としての家族を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	家族看護学の著書で調べる	
		各コマにおける授業予定	1) 家族の多様性、2) 家族と健康、3) 家族内のコミュニケーションのゆがみ、4) 家族の中の役割関係、5) システムとしての家族 6) 家族関係図を描く 7) 家族療法の考え方			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 関係の中の間人 人間と集団について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	集団における個人についての著書を調べる
	各コマにおける授業予定	1) 集団の中の自己 2) グループプロセス 3) 全体としてのグループ 4) グループ実践 5) グループとしての病棟		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科で出会う人々について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科に関する記事の検索を行いそれについて調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神を病むことと生きること		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科で出会う人々について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で復習する
	各コマにおける授業予定	1) 精神症状論と状態像 ①症状とは何か ②さまざまな精神症状 3) 精神障害の診断と分類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科で用いられる薬物について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神科における治療 2) 薬物療法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神療法などの治療法について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神療法 2) 環境療法 3) 社会療法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神医学の歴史について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神における精神医学・精神医療の流れ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神疾患が社会でどのようにとらえられているか調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神障害と文化 2) 精神障害と社会学		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会のなかの精神障害を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
	各コマにおける授業予定	精神障害と法制度		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
	各コマにおける授業予定	統計からみた現代社会のメンタルヘルス問題		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	報道記事から精神科に関する問題を把握する
	各コマにおける授業予定	1) 具体的にみた現代社会のメンタルヘルス問題 2) 精神保健専門家に期待されること		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	精神看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
患者理解の手段となる傾聴・共感のコミュニケーション技術の活用と、人間関係の確立とその関係性を発展させる方法について学ぶ						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行いましょ						
《履修に当たっての留意点》						
集中して授業に臨みましょ						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる①	精神看護学の基礎テキスト、資料	統合失調症について調べる	
		各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 1) 統合失調症			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる②	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	気分障害について調べる	
		各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 2) 気分(感情)障害			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる③	精神看護学の基礎テキスト、資料	神経障害について調べる	
		各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 3) 神経障害、その他			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの人間関係①	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
		各コマにおける授業予定	1) ケアの前提: 相手を知ること、自分を知ること			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの人間関係②	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
		各コマにおける授業予定	2) ケアの原則①人としての尊厳を尊重する②互いの境界を守る③現実検討をする④応答性を保つ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護におけるユーモアについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)そばにいること、「対象」となること 2)遊ぶこととユーモア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	3)話をする、聞くこと 3)気持ちに焦点をあてる 4)率直になること		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードを作成するか説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードに使えるような事例を探す
		各コマにおける授業予定	なぜ関係をアセスメントするのか		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プロセスレコードについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとは		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとはどう書くのか		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	作成したプロセスレコードで自己のコミュニケーションの傾向を知る
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードを用いたアセスメントの実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	患者と看護師間で発生した問題について検索する
		各コマにおける授業予定	1)共感する2)拒絶される3)攻撃の対象となる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	転移・逆転移について調べる
		各コマにおける授業予定	1)転移・逆転移		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームダイナミクスについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	チームダイナミクスについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)病棟のダイナミクス		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	スプリットングについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)チームのスプリットング 2)カンファレンスでおこること		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
精神医療における入院環境と治療的アプローチについて患者の自立・回復を促すための支援方法を学ぶ。						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
予習・復習をおこなうこと						
《履修に当たっての留意点》						
集中して授業に臨みましょう						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	精神科における看護の役割について説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	精神科における入院に ついて調べる	
		各コマに おける 授業予定	I)入院治療の意味を理解する ①患者にとっての入院体験 ②入院の仕方 ③入院治療の目的 ④患者のアセスメント			
第2回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	治療的環境をつくる必要性を説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	精神科における環境に ついて調べる	
		各コマに おける 授業予定	1)治療と環境 2)治療的雰囲気 3)治療共同体 4)治療的環 境と看護師			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	安全を守る必要性について説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	教科書を復習する	
		各コマに おける 授業予定	1)安全な環境をつくる 2)リスクを最小限にする 3)自殺 ④)暴 力			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	回復を助けることの必要性について説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	精神科リハビリについて 調べる	
		各コマに おける 授業予定	1)治療と回復 2)精神科におけるリハビリテーション 3)回復 をささえるさまざまな方法4)回復のビジョン			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	身体をケアする必要性について説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	薬物、電気痙攣療法に ついて調べる	
		各コマに おける 授業予定	I)精神科における身体のケア2)身体に現れるこころの痛み3) 精神科の治療と身体のケア ①向精神薬の有害反応 ②電気 痙攣療法の看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を復習する
		各コマにおける授業予定	1) 患者の回復段階ごとの身体へのアプローチ、2) 日常生活における身体ケア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	PTSDについて調べる
		各コマにおける授業予定	1) 睡眠の援助 2) 心的外傷を持つ患者への身体ケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ		
		各コマにおける授業予定	終講試験		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	精神看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	坂手 康人	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>主要な精神疾患をもつ対象への看護を学ぶ 精神疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、セルフケア不足の観点から援助を導き出せる。 既習の知識・技術を活用し、対象に合わせた看護の方法を学ぶ:対象の願いを聞き、その願いを叶えるための目標と計画を立案する方法を学ぶ 学びを他者と共有することで、次回同じ場面に合ったときに、よりよく看護をするための方法を学ぶ</p> <p>演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する</p> <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版</p> <p>《授業外における学習方法》</p> <p>予習・復習をし授業に参加すること。</p> <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>提出期限の厳守。積極的に参加すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	事例で提示された疾患 を調べる	
		各コマに おける 授業予定	①事例を用いて看護過程の展開			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基 礎テキスト、資料 DVD	情報を分ける	
		各コマに おける 授業予定	事例(看護アセスメント、問題)			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	情報を整理する	
		各コマに おける 授業予定	事例(問題の抽出)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	関連図、看護問題を立 案できる	
		各コマに おける 授業予定	事例(実施・評価)			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	地域における精神看護について説明できる	精神看護学の基 礎テキスト、資料	地域における精神医療 について調べる	
		各コマに おける 授業予定	1)地域で生活するための原則 2)生活を支える制度			

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		地域で精神障害者を支援するための方法を説明できる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	地域における精神医療について調べる
		1)医療(ACT、訪問看護など)2)生活支援3)交流4)働くこと		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		地域で精神障害者を支援するための方法を説明できる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	リエゾン看護について調べる
		1)地域での看護の実際(事例を通して) ①訪問看護 ②精神科リハビリシステムの実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	災害看護について調べる
		精神科以外での精神看護について説明できる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	リエゾン看護について調べる
		1)身体疾患と精神看護 2)看護カウンセリング		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	災害看護について調べる
		1)被災者が直面する精神的諸問題 2)アメリカの精神保健援助チーム		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	ボランティアに教えている内容を調べてみる
		1)リエゾン精神看護 2)コミュニティにおける精神保健・精神看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	メンタルヘルスの現状について調べる
		災害における精神保健福祉援助について説明できる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		1)ボランティアと専門家との連携 2)アフターケアのガイドライン		
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて説明できる		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		1)看護師の感情ワーク 2)看護にこける共感の光と影		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		感情労働の代償について説明できる		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		感情労働の代償		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		感情労働を生き延びるための方法を説明できる		
第21回	演習形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		感情労働を生き延びるための方法を説明できる		
第22回	演習形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		課題についてグループ討議する		